日蓮大聖人御書全集

常楽我浄御書
じょうらくがじょうごしょ

新版 2163

常楽我浄御書

出でさせ給いて諸大乗経をかんがえ出だし、十方の浄土を立て、一切の諸法は常楽我浄と云々。

その時、五天竺の十六の大国、五百の中国、十千の小国、無量の粟散国の諸の小乗経の無量無辺の寺々の衆僧、一同に蜂のごとく蜂起し、蟻のごとく聚集し、雷のごとくなりわたり、一時に聚集して、頭をあわせてなげいて云わく「仏在世にこそ、五天の外道、我らが本師・教主釈尊とはあらそいしか。仏は一人なり、外道は多勢なり

しかども、外道(げどう)はあり(蟻)のごとし、仏(ほとけ)は竜(りゅう)のごとく、師子王(ししおう)のごとくましませしかばこそ、せめかた(責勝)せ給(たま)いしか。これは、それにはに(似)るべくもなし。馬鳴(めみょう)は一人(ひとり)なれども、我(われ)らは多人(たにん)なれども、代(よ)すえ(末)になれば悪(あく)はつよく(強)善(ぜん)はゆわし(弱)。仏(ほとけ)の在世(ざいせ)の外道(げどう)と仏法(ぶっぽう)とは水火(すいか)なりしかば。